

令和2年4月の解説（週間天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、東日本と西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。東日本太平洋側と西日本日本海側の日照時間の平年比は、それぞれ144%、148%となり、4月上旬としては1961年の統計開始以降で最も多くなりました。一方、低気圧は北日本付近を発達しながらたびたび通過したため、北日本の降水量はかなり多くなりました。気温は、北日本は低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすく高かった一方、西日本と沖縄・奄美は寒気を伴った移動性高気圧の影響を受けやすく低くなりました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、本州付近を低気圧が発達しながらたびたび通過したため、北日本太平洋側と東日本、西日本では大荒れの天気となり、まとまった雨や雪となった所もありました。東日本太平洋側と西日本の降水量はかなり多く、東日本太平洋側の降水量の平年比は305%となり、4月中旬としては1961年の統計開始以降で最も多くなりました。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れた日が多く、沖縄・奄美の降水量はかなり少なくなりました。気温は、大陸からの冷たい空気が流れ込みやすかったため、全国的に低くなりました。

下旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、西日本では移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間はかなり多くなりました。西日本太平洋側の日照時間の平年比は139%となり、4月下旬としては1961年の統計開始以降で2005年と並び最も多くなりました。東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美の降水量はかなり少なくなりました。一方、関東甲信地方を中心に上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨となった所もありました。気温は、大陸からの寒気の影響を受けやすく、東日本、西日本と沖縄・奄美でかなり低くなりました。

【4月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも7ポイント高い79%でした。地方別の適中率では、東北で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.6℃小さい2.1℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.4℃小さい1.7℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

例年、6月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、九州や四国、本州付近に停滞することが多くなります。平年では、上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むために気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。週間天気予報からわかる向こう1週間の天気や気温の傾向を、農作物の管理等に役立ててください。